



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和 3年 7月21日

いっぱい「体験」するすてきな夏休みに…

校長 菅原 透

梅雨が明けたらいきなりの猛暑…。夏を堪能するにはちょっと暑すぎますが、熱中症対策を施して、スイカや花火等でこの季節を楽しみたいものです。

さて、本日で1学期が終わりました。4か月もの間で、進級したそれぞれの学年らしく成長してきました。様々制限された中ですが、子ども達なりにがんばって、学習や生活に臨むことができました。いっぱいほめてください。そして、これも保護者、地域の皆様の力強い支えによるものであり、心から感謝いたします。

さて、明日から夏休み。東京オリンピックやお盆等の行事で、忘れられないシーンの連続となるか…。子ども達には、それこそ夏を楽しんでほしいと願っています。そのキーワードは「体験」です。一生に1回しかない令和3年の夏。大きなイベントに加え、何気ない毎日の生活の中で、自分らしい思い出をいっぱい作ってほしいと思います。

思い起こすに…。私は、家業が青果店だったので親は仕事で忙しく、姉も兄も年が離れていたため、ほとんど自分一人で遊びを作っていました。小学生の頃は、プールに日参していました。午前も午後も稲荷が丘の町民プールに炎天下歩いて通っていました。蝉がせわしく奏でる中、稲荷が丘グラウンドに入ると“プールのおい(今思えば塩素の匂いですね)”がして、思わず駆け出していました。独特の香りがする更衣室で急いで着替えると、冷たい消毒槽に入り、冷たいシャワーを

ちょっと？浴び、準備運動もそこそこに生ぬるい“本プール”に入って、水の感触を楽しみました。“補助プール”は水温が高く、温泉のようでした、もう真っ黒に日焼けして(今では考えられないことなのでしょうが)、当時の写真には、黒光りしている自分が写っています。小学校時代の夏休みの貴重な思い出です。

今年の夏はどうなるのでしょうか。熱中症対策、コロナ感染対策で、様々な制約が予想されます。外に出ない、集まらない…。「しない」ことは最大の防御で、命を守るために必要なこと。しかし、今しかできないこと、今だからさせたいことがたくさんあるのも事実です。それこそ、水難を防ぐためにも泳力をつけたい。冷たい水の感覚を体得させたい。暑さも、ある程度ならば、それに対応できる術を学ばせたいものです。本校の教育活動もできる限りの工夫を施し、学びを止めないようにしてきました。「快」「便」生活(快適で便利な生活)を有効に活用しながらも、自らの五感で感じ取らせることを子ども達に保障してまいりましょう。ゲームでは味わえない自然や人とふれあう楽しさ、手伝い等による役立つ自分の実感(それには、ありがとう！助かるね！さすが！のほめ言葉が不可欠ですが)を休み中に是非体験させてください。子ども達に“楽しさ”を味わわせるのは、大人の使命ですね。それぞれのご家庭で、我が子にすてきな夏をプレゼントしてください。

